

1. URAにおいて目指すもの

研究推進機構と産学地域連携推進機構の中心にプロジェクト企画に特化したリサーチ・アドミニストレーター機能を重点整備する。「大学を代表する研究プロジェクト(超域研究プロジェクト)」を選定して研究プロジェクトの企画・計画を中心とした研究支援を行い世界レベルの拠点プロジェクトを支援する。次世代を担う若手研究者の「優れた研究プロジェクト」を発掘する新しいトップ研究育成の体制構築による優れた研究支援を目指す。

- ① 研究水準の高度化
 - ② 優れた研究の発掘とトップ研究への育成
 - ③ URA組織の普及
-
- ・プロジェクト企画型のURA
 - ・研究推進と産学地域連携の中心に配置
 - ・研究プロジェクト循環を目指す若手研究の育成

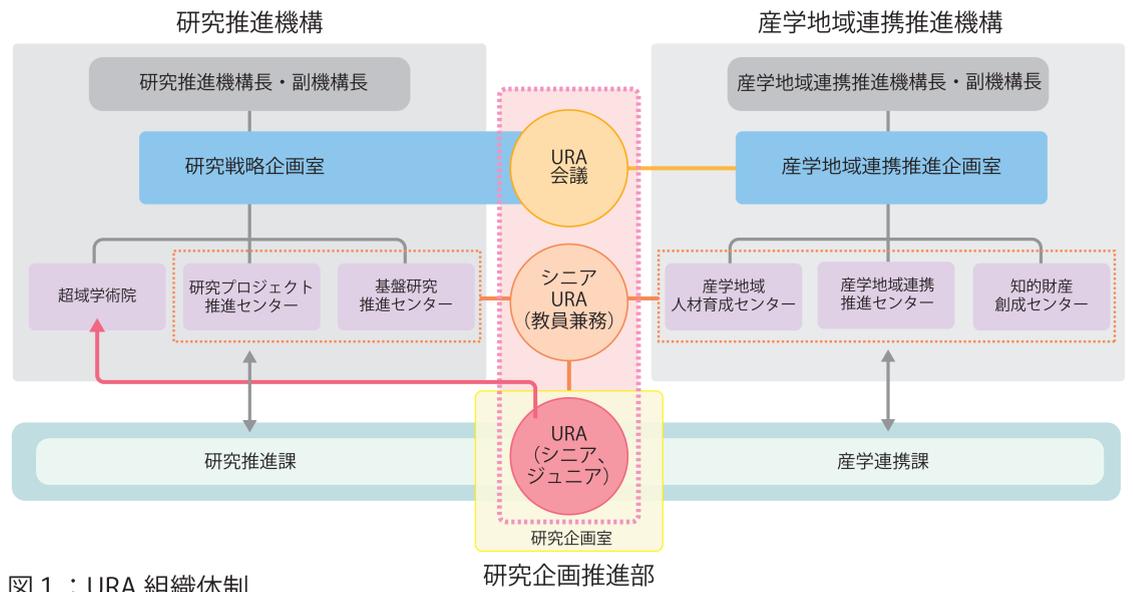
表1：補助事業の骨子

事業タイプ	専門分野強化
URA学内配置 (大学事務職員兼務)	2名
補助金支援配置	シニアURA 1名 ジュニアURA 4名

2. URA組織体制

(1) 組織

- ① プロジェクト企画型のURA
→ 研究系 URA (重点整備)
プロジェクト運営型のURA
→ 事務系 URA (大学事務職員兼務)
 - ② 研究推進機構と産学地域連携推進機構の中心に配置
- ### (2) 育成
- ③ 段階的な育成プログラムを整備
 - ④ 事務系スタッフと専任教員との連携
 - ⑤ 国内外のURAネットワークの活用



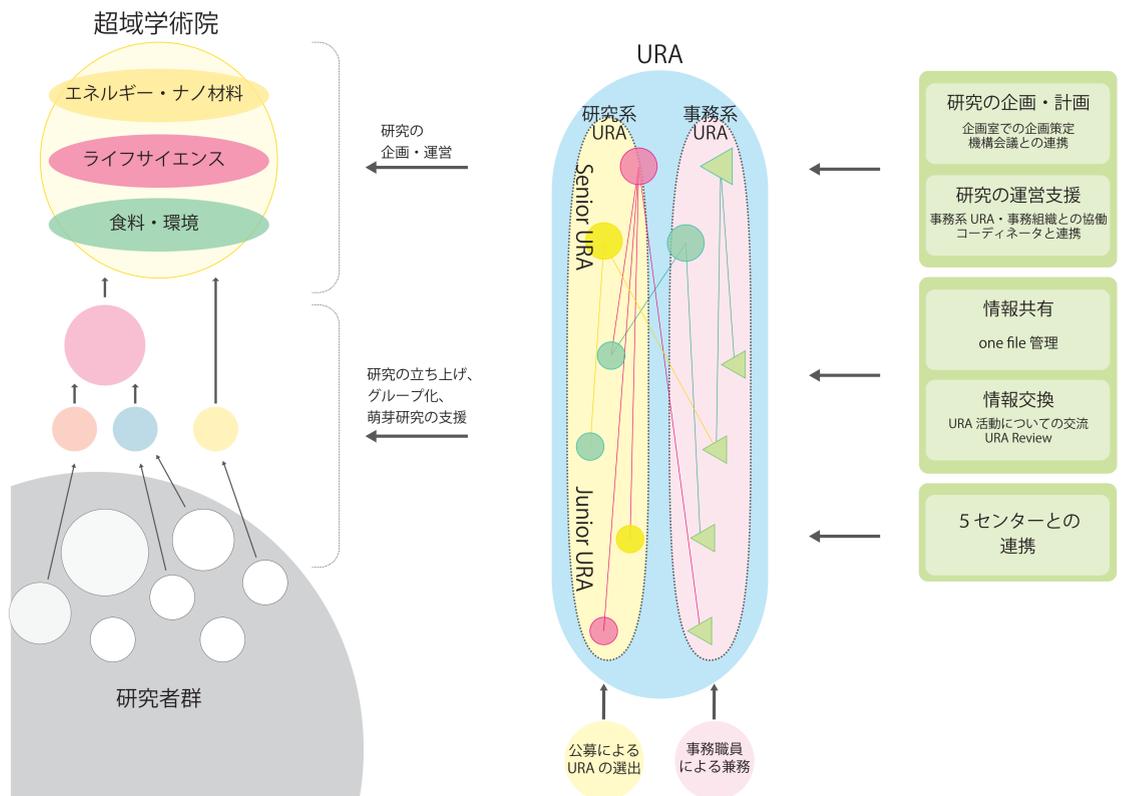
3. URAの職務内容の特徴と整備による効果

- (1) 世界レベルの拠点プロジェクト研究の形成
研究企画、異分野、複合分野への展開支援
異分野共同研究の立ち上げ支援
国際的研究ネットワークの構築・支援
- (2) 優れた研究の発掘とトップ研究への育成
若手研究の中から超域学術院に育つ研究テーマの発掘
若手研究者のグループ形成
トップレベルの研究者との交流、共同研究実現の支援
- (3) URA組織の普及に貢献
URA組織の情報系・活動の発信
URAの育成の場の提供
URA推進の大学間ネットワーク形成の中心としての役割

図1：URA 組織体制

4. URA職の定着に向けた取組

- ① URAの職階制
・ジュニアURAを4階級、シニアURAを2階級に階層化 (JURA1-JURA4, Deputy Principal URA, Principal URA)
・学内資格認定による上位職への昇格制度の整備
- ② 「第3の職種」としてのURA職の確立等に必要の人事制度



5. URA支援実績(平成26年度)

- ① 超域学術院への支援
・競争的資金等に関する情報収集
・申請書作成支援
- ② 公的研究費の申請支援
▶ 文部科学省
・頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム
・大学の世界展開力強化事業
・スーパーグローバル大学等事業 スーパーグローバル大学創成支援事業
▶ JST
・戦略的創造研究推進事業 [CREST、さきがけ]
・日本・アジア青少年サイエンス交流事業 さくらサイエンスプラン
・研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP [FS]探索タイプ)事業
▶ JSPS
・科学研究費助成事業: 全学対象
- ③ 民間助成事業の申請支援

トップ研究への流れ (左側), URA チーム支援 (中間), URA 組織と他の機関等の関わり (右側)

図2：URA 支援事業の体制

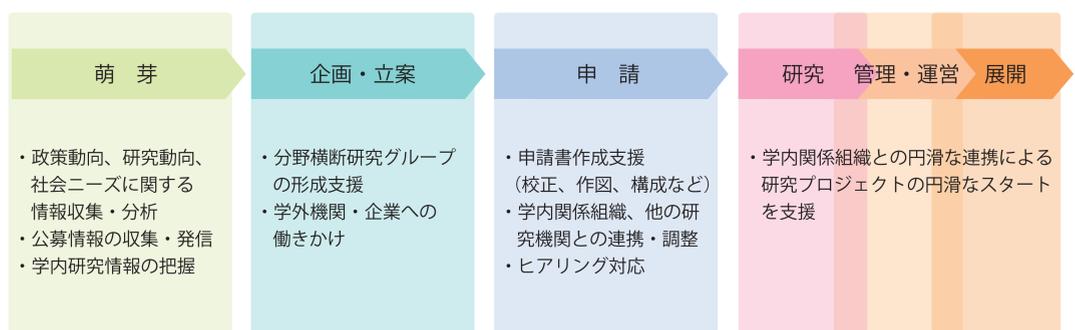


図3：URAによる競争的資金申請支援の流れ

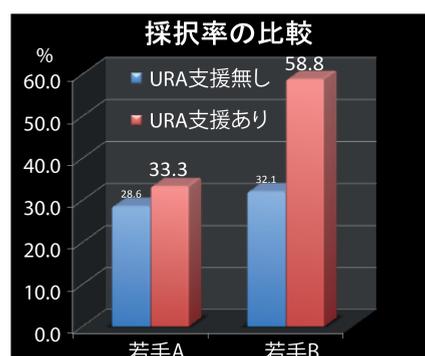
URAによる申請支援活動(実例)

科研費申請支援の流れ(平成25年度)

- 9月上旬 文科省主催科研費説明会出席
- 9月 各学部主催の学内科研費説明会で講演
- 9月中旬 基盤S, A 支援開始
- 期間中 問い合わせ対応
- 9-10月 若手個別相談会
若手種目評定要素資料作成
- 10月下旬 学内締切後 URA チェック
- 12月 支援のまとめと反省会

採択率UPに貢献!!

その結果...



本年度は『若手研究者向け科研費説明会』等の支援を開始している